

サラヤ株式会社 御中



＜ウガンダ共和国＞

ウガンダ南西部コンゴ難民の子どもとその家族を  
対象とした保健と衛生事業

報告書

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

## 1. 事業背景

コンゴ民主共和国（旧ザイール）では内戦や和平合意が繰り返されてきましたが、2012年4月、コンゴ東部の北キヴ州で起こった新たな武力紛争を受けて、220万人が国内避難民となり、70万人が難民として隣国のウガンダとルワンダに逃れました。この状況を受けて、ウガンダ政府はコンゴ民主共和国の国境に近いウガンダ南西部のキソロ県にニャカバンデ一時滞在所を設置し、カムウエンゲ県にルワンワンジャ難民キャンプを設置しました。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、難民流入が起り始めてから、6万人以上がルワンワンジャ難民キャンプに避難してきており、その60%は子どもです。キャンプにはUNHCRの支援も入っていますが、衛生施設などはまだ十分に整備されていません。

セーブ・ザ・チルドレンは難民キャンプで暮らすコンゴ難民の衛生環境を改善するため、子どもとその家族を対象に支援活動を実施しました。

この2つの施設において、セーブ・ザ・チルドレンは以下の活動に重点的に取り組んでいます。

- ・子どもや難民コミュニティにとって安全で健康的な環境を提供すること
- ・家族と離れ離れになったり身寄りのない子どもの支援
- ・遊び、幼児教育（ECCD）の機会を増やすこと

サラヤ株式会社様からのご支援は、主にECCDセンター、こどもひろばや難民コミュニティにおいて、子どもに対する衛生の現状を改善するための活動に活用させていただきました。

## 2. 活動内容および成果

### ① 子どもに対する衛生教育

セーブ・ザ・チルドレンはルワンワンジャ難民キャンプにて、子どもピア・エドゥケーター<sup>1</sup>に対する2日間の水・衛生ワークショップを行いました。このワークショップには、難民キャンプの子ども16人と8人の先生を含む25人が参加しました。ワークショップの目標は、ピア・エドゥケーターが難民キャンプ内の学校やコミュニティで衛生促進ができるように、参加者の水と衛生に関する知識とスキルを養うことで、以下を目的としました。

- ・安全な水へのアクセス、安全な排泄物処理方法、手洗いの概念を理解すること

---

<sup>1</sup>同ような境遇、同じ年代など、仲間同士で学ぶことをピア・エドゥケーションという。例えば今回の事業では、子ども同士での学びを指す。ピア・エドゥケーターはピア・エドゥケーションの実施者。

- ・コミュニティの中で、衛生的な水の確保や正しい手洗いといった衛生習慣を促進する役割を子どもたちが担っていることを理解すること
- ・学校やコミュニティにて、入手可能な現地の素材を使って公衆衛生施設を設置する知識や能力を身に付けること



ワークショップにて、参加者が手洗いの練習をしている様子

グループワークや話し合い、実習を通して、参加者は衛生的な水の確保、適切なおみ処理、家の清掃、身の回りの清潔を保つこと、安全な排泄物処理、思春期の少女の衛生といった課題や、衛生に対する理解促進における子どもの役割について学びました。ワークショップを通して身に付けた知識をもとに、参加者は手洗いを練習したり、簡易手洗い設備（Tippy Taps）を作ったりしました。

ワークショップに続いて、ピア・エデュケーターは学校のクラブ活動を通して校内の水と衛生への意識を高める活動を実施しました。同じ学校に通う子どもたちへ知識を伝えることに加えて、手洗い設備を学校に作ったり、正しいおみ処理を他の子どもたちとともに実践したり、校舎やトイレを清潔に保つ活動を実施しました。この活動により、学校、ECCDセンター、こどもひろばやコミュニティにおいて、水や不衛生に起因する病気の蔓延を防ぐことができました。この活動はキャンプ内にある3つの小学校の2,700人の子どもたちとECCDセンターとこどもひろばに通う1,000人を超える子どもたちの衛生や健康維持に貢献しました。



ECCD センターの様子

## ② 保健・衛生キットの調達と配布

セーブ・ザ・チルドレンは保健・衛生キット（飲み水タンク、シャベル、ブラシ、くわ、手押し車、丈夫な手袋、ゴム長靴、液体せっけん、蚊帳、ジェリカン（携行缶））を ECCD センターとこどもひろば 10 施設に配布しました。蚊帳は各センターのスタッフによって孤児や親と離れて暮らす子どもたちとその家族に配られました。この備品によってセンターは子どもたちに安全な飲み水を提供し、簡易トイレや広場、室内の学習スペースを清潔に保つことができました。



地域住民が ECCD センターの広場やトイレ設備を清掃する様子



ECCD センターで水を飲む子どもたち

### ③ コミュニティボランティアの人材育成

セーブ・ザ・チルドレンは、難民キャンプの大人に対しても衛生に関する 2 日間のワークショップを行い、コミュニティの水・衛生監視員 15 人、コミュニティ開発担当 1 人、子どもの保護委員会のメンバー 9 人の計 25 人が参加しました。このワークショップの目標は、コミュニティの人々の水や衛生、病気の予防の意識を向上するために、参加者が衛生促進の知識と能力を身につけることでした。ワークショップの目的は以下の通りです。

- ・安全な水の利用、安全な排せつ物の管理方法や手洗いのコンセプトを正しく理解すること
- ・コミュニティでの効果的な水利用と衛生習慣を広く定着させるための能力を身につけること
- ・難民キャンプで手に入るものを使って衛生設備を設置する知識や能力を身につけること

グループワーク、話し合いや実習を通して、参加者は身の回りの清潔、安全で衛生的な排泄物やごみの処理、安全な水の利用やコミュニティへの水・衛生習慣の普及方法について学びました。学んだ知識を実践できるよう、参加者は正しい手洗いを練習し、簡易手洗い設備 (Tippy Taps) を作製しました。



ワークショップ中の参加者による簡易手洗い設備 (Tippy tap)設置の様子

ワークショップ後、コミュニティの水・衛生監視員は水と衛生への意識を高める活動をコミュニティで実施しました。これにより、難民キャンプにおいて水や不衛生に起因する病気の蔓延を防ぐことができ、この活動は 3,000 人以上に裨益する活動となりました。

### 3. 最後に

サラヤ株式会社様による水と衛生への支援は、子どもたちが遊び、学ぶ ECCD センターやこどもひろばでの衛生環境の整備に活用させていただきました。安全な飲み水や適切なトイレ設備へのアクセスは子どもたちのセンターの利用を維持、促進しています。また、子どもピア・エデュケーターとコミュニティの水・衛生監視員は、安全な水の利用と衛生習慣についてコミュニティの意識向上を行い、難民キャンプにおける病気の蔓延を防いでおり、子どもたちの健康的な成長に寄与しています。ルワンワンジャ難民キャンプには依然として多くの難民が滞在していることから、セーブ・ザ・チルドレンは引き続き、同地域にて活動を継続します。

いつも温かいご支援を賜り、ありがとうございます。今後とも何卒よろしく願いいたします。

以上